

## 平成 21 年度 認知症地域支援体制構築等推進事業報告（御浜町）

### ○ 当地域の概要

御浜町は三重県の南端にあり、紀伊山地を背に太平洋を臨み、七里御浜の中間部に位置し、古くから柑橘類の栽培が盛んで「年中みかんのとれるまち」として温暖で雨が多い地域である。人口は 9,771 人（平成 21 年 10 月 1 日現在）で高齢化率は約 32%であるが、特に山間部の高齢化率が高く、60%を超えている地域もあるといった状況である。

また、高齢化率の上昇にあわせるようにひとり暮らし高齢者も増加しており、高齢者の約 25% はひとり暮らしであり、高齢者夫婦世帯もあわせると約 62%の人が高齢者だけで生活しているという実態である。さらに、認知症の高齢者の状況をみてみると、御浜町には約 400 名の方に認知症の症状が見られ（介護保険認定調査より）、65 歳以上の 8 人に 1 人、85 歳以上でみると 3 人に 1 人の割合となっている。

【介護認定からみた認知症の人の占める割合】

	介護認定者数	自立度Ⅱa 以上	率
平成 12 年	267 名	142 名	53.2%
平成 17 年	620 名	332 名	53.5%
平成 20 年	605 名	398 名	65.8%

### ○ 認知症への取り組みについて

御浜町では、平成 18 年に地域包括支援センターが設置され、様々な高齢者に関する総合相談を受けてきた。その中でも認知症に関する相談は深刻で、介護支援専門員が抱える困難事例のほとんどは認知症のケースであるなど、早期の認知症対策の必要性を感じていた。

そこで、平成 20 年度に、県や近隣市町との協働で、キャラバン・メイトの養成講座や認知症サポーターの養成講座を実施し、認知症に関する事業を展開するための体制を整え、平成 21 年度からは県よりモデル地域の指定を受け、本格的に認知症に関する事業に取り組むこととなり、課題解決に向けた事業展開を図ってきたところである。

### ○ 具体的な取り組み

#### (1) コーディネーターの選定

コーディネーターの選定につきましては、当事業単独での展開ではなく、他の事業との連動性もあることから、全体のコーディネートを地域包括支援センターの社会福祉士に位置づけし、地域での見守り体制の構築やボランティア育成等についてを、ボランティアコーディネーターが担うといった形での 2 名体制で行なうこととした。

#### (2) 地域資源マップの作成

本年度においては、事業を展開しながら地域の実情を把握し、先進地事例も参考にしながら

ら、活用しやすいマップとはどのようなものかを検討することとし、製品化は翌年度に行なうという方針から、2ヵ年をかけて作成していくこととしたところである。いくつかの先進事例の情報収集や、関係機関や関係委員との協議を中心に行なってきたが、本格的には新年度において進めて行くこととする。

### (3) 地域支援体制推進事業

#### ① 事業全般に関する取り組み

##### ◆ 全体方針をプロジェクトチームで協議

健康福祉課（課長、高齢者担当職員）、地域包括支援センター（主任ケアマネ、社会福祉士）、社会福祉協議会（事務局長代理、ボランティアコーディネーター）6名で組織し、随時協議を行ないながら事業を展開した。

##### ◆ 先進地視察

前年度より、認知症サポーター養成講座の実施や研修会の開催等は行っていたが、具体的な事業展開にあたっては、先進的な取り組みを参考にしながら進めるということから、愛知県の北名古屋市（5月）と大阪府の藤井寺市（7月）へ先進地視察を行なった。

#### ② 地域住民の認知症に対する理解に向けて

##### ◆ 認知症サポーター養成講座の実施

昨年度からの認知症サポーター養成講座の取り組みから、3月末の時点で県との協働事業も含めると、300名のサポーターが誕生しており、今年度も引き続き養成を行なった。

（21年度 408名を養成）

	対象者	日程	参加人数
高齢者	いきいきデイ利用者①	平成21年 7月 8日	8名
	いきいきデイ利用者②	平成21年 7月10日	10名
	いきいきデイ利用者③	平成21年 7月15日	21名
	いきいきデイ利用者④	平成21年 7月22日	25名
	いきいきデイ利用者⑤	平成21年 7月24日	6名
	いきいきデイ利用者⑥	平成21年 7月28日	15名
	いきいきデイ利用者⑦	平成21年 7月28日	13名
	阿田和地区老人クラブ	平成22年 2月16日	14名
一般住民	一般住民(グループつどい)	平成21年 6月10日	52名
	一般住民(グループえいじ)	平成21年 6月29日	7名
	一般住民(グループおろし)	平成21年 8月 6日	10名
	尾呂志地区一般住民	平成21年10月 9日	28名
	配食ボランティア①	平成21年11月19日	9名
	配食ボランティア②	平成21年11月25日	8名
	配食ボランティア③	平成21年11月25日	9名
	配食ボランティア④	平成21年11月27日	22名
子供	紀南高校生(ヘルパーコース)	平成21年 6月16日	4名
	御浜中学1年生	平成22年 2月25日	50名

企業等	紀南地域郵便局	平成21年 7月23日	19名
	紀南病院の職員	平成21年 9月30日	31名
	JA三重南紀農業協同組合	平成22年 1月27日	27名
	第三銀行（御浜支店）	平成22年 2月 4日	5名
	御浜町商工会	平成22年 2月 9日	6名
	新宮信用金庫（御浜支店）	平成22年 2月16日	9名

◆ パンフレットの作成

認知症について、家族や住民に理解していただきやすいものを独自で作成し、関係機関や病院、介護保険事業所へも配布を行なった。



◆ ステッカーの作成

認知症の人と家族を応援するためのアイテムの一つとして、ステッカーを作成。

「みロバ」という独自のキャラクターを設定し、金融機関や郵便局、介護保険事業所の窓口等への掲示、役場の車や介護保険事業所の車にも貼って頂く。

御浜町の町章である  
 と、認知症キャラ  
 パンのマスコット   
 をミックスした独自の  
 キャラクターを設定し、応援ステッ  
 カーを作成した。







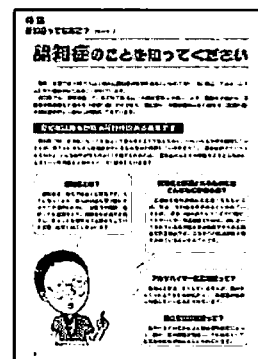
御浜町役場玄関

◆ 情報誌の発行

春夏秋冬で年4回、地域包括支援センターからの包括だより「みロバ」を発行。包括の活動や認知症に関する情報等を、サポーター養成講座実施の際のアンケートの中に、情報提供の希望で登録していただいた方を中心に送付し、町が実施した認知症に関する事業や情報の紹介等を行なった。

◆ 広報誌を使つての啓発

「広報みはま」へ3ヶ月のシリーズで、「認知症」をテーマとした特集を組んで、取り組みの啓発や、認知症理解の促進を図る。



◆ 講演会の開催

スキルアップ研修

専門職のスキルアップを図るという目的で様々な研修を行ないながら、認知症になっても住みよいまちづくりを目指しているところであるが、町内だけという取り組みではなく、紀南地域、東紀州地域全体のスキルアップを図ることで、さらに住みよいまちづくりを構築していくことが可能になるというところから、東紀州管内の5つの包括職員を対象に、「認知症の人を支える地域づくり」をテーマに研修会を開催した。

日 時：平成21年12月2日（水）13：00～14：30

場 所：御浜町中央公民館3階研修室

講 師：認知症介護研究・研修東京センター

ケアマネジメント推進室長 永田久美子氏

参加者：紀北町・尾鷲市・熊野市・紀宝町・御浜町地域包括支援センター職員  
（15名の参加）

引き続き、キャラバン・メイトや紀南地域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に、「認知症の人が生きることを支える ～お互いが安心して暮らせる町をめざして～」をテーマに、永田氏による研修を行なった。

日 時：平成21年12月2日（水）15：00～17：00

場 所：御浜町中央公民館3階研修室

講 師：認知症介護研究・研修東京センター

ケアマネジメント推進室長 永田久美子氏

参加者：キャラバン・メイト、紀南地域管内の居宅介護支援事業所ケアマネジャー、東紀州管内の包括職員  
（56名の参加）



## 住民向け講演及び本人・家族による講演会

「認知症講演会 IN 御浜町」

～ 認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して ～

実施日時： 平成22年1月9日（土） 14時 ～ 17時

実施場所： 御浜町中央公民館

参加者： 550名

### 第1部（本人・家族による講演）

講師：佐野光孝（当事者）・明美（妻）夫妻、水谷たか子氏（コーディネーター）

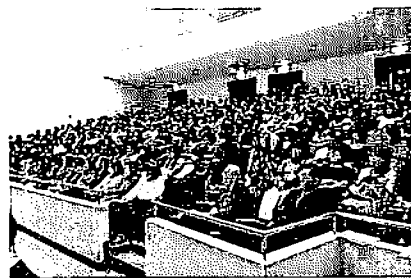
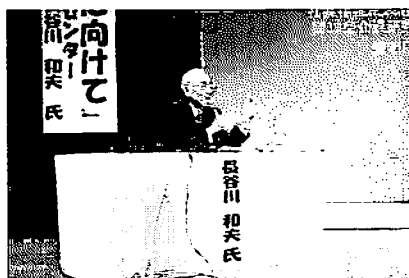
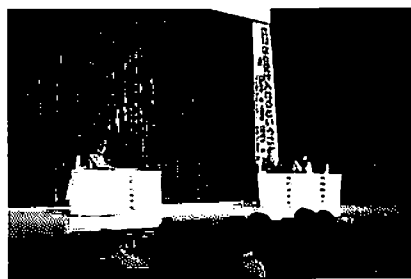
内容：「認知症を受け入れるということ」と題して、インタビュー形式で講演をしていただく。58歳で若年性のアルツハイマーと診断を受けて、悩み、苦しみ、そして今、認知症を受け入れて、観光ボランティアなどを行ないながら、認知症と向き合い続けている当事者の思いを語っていただいた。

### 第2部（住民向け講演及び多職種共同研修・研究事業講演）

講師：認知症介護研究・研修東京センター

名誉センター長 長谷川和夫氏

内容：「認知症の正しい理解に向けて」と題して、認知症についての理解に関すること、認知症ケアに関すること、認知症になっても住みよいまちづくりに関すること、3つの構成に分けて講演していただいた。



— 講演会での様子 —

### ◆ 認知症ケースの事例検討会を開催

地域包括支援センターの事業の一環で、居宅のケアマネジャーを対象に参加希望者を募り、認知症ケースの事例検討会を実施。内容としては、単発の検討会ではなく、検討を行なったケースの振り返りも行なう形とし、継続の事例検討会として行なった。

（熊野包括・紀宝包括共催）



◆ 事業所別研修の開催

介護保険サービス提供事業所を対象に、個別の認知症ケースに関する研修・研究を包括職員と協働で実施するところの希望を募ったところ、4事業所からの希望があり、それぞれ1事業所につき3回セットの研修会を実施。基本的には、包括職員が事業所に出向いて行なうこととした。

(事業の位置づけとしては、「認知症地域ケア多職種共同研修・研究事業」で実施)

回数	内容
第1回	認知症の基礎研修 事業所の法人全職員を対象で実施
第2回	事業所の個別の認知症ケースについて、希望事業所の計画作成に携わる職員と包括職員で事例検討を行なう。 認知症の人の気持ちと行動のなぜを知ることに関心を置き、その為の仮説を立てて経過を追う。
第3回	2回目に立てた仮説を基に、事業所職員に約3ヶ月間経過を追っていただき、その結果を振り返りながら、関わり方等についての評価を行なう。

事業所名		1回目 基礎研修会	2回目 事例検討会	3回目 報告会
であい	訪問介護	5月7日	5月27日	9月15日
つどい	訪問介護	6月10日	6月26日	10月27日
えいじはうす	通所介護	6月29日	7月23日	11月26日
尾呂志リハビリ	通所リハ	8月6日	8月26日	12月9日



◆ 高齢者見守りサポーターの養成

認知症サポーターは、養成講座を1回受講するだけとなるが、さらに3回加えた4回シリーズの講座を受講していただき、今年度16名が「高齢者見守りサポーター」として登録。

項目	開催日	内容
1回 認知症に関する基礎研修	10月23日	・認知症に関する基礎研修(包括職員) ・回想法の体験
2回 消費者被害について 介護保険制度等について	10月29日	・悪徳商法や詐欺手口について(警察職員) ・高齢者福祉や介護保険制度、地域包括支援センターについての説明(包括職員)

3回	認知症の人の気持ちについて	11月 5日	認知症の人の行動についての映像を見ていただき、認知症の人の気持ちについて考える
4回	認知症家族の気持ちについて	11月27日	・認知症家族の気持ちについて知る(家族会) ・グループワーク(家族会)



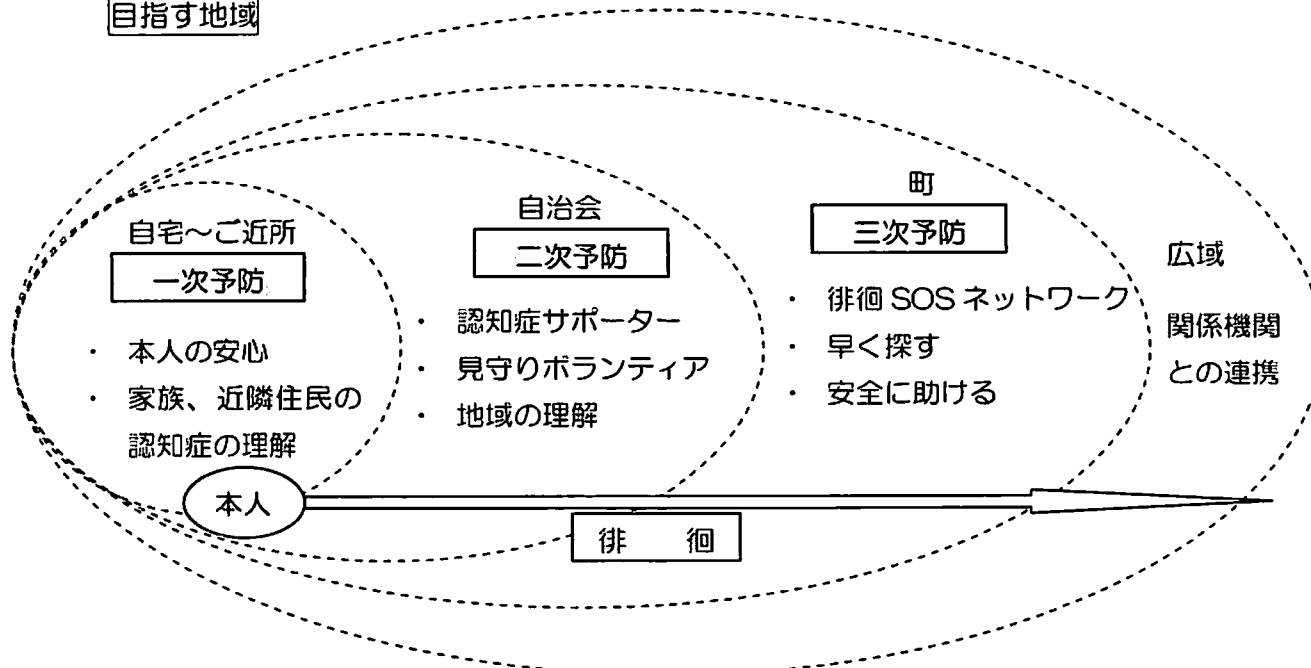
#### ◆ 地域の見守りボランティアの育成

地域の中での見守りシステムを構築し、見守りボランティアの育成を行なう。民生委員、高齢者見守りサポーター、配食ボランティアをベースとした体制で、ボランティアセンターを中心に呼びかけを行ない、約80名の方に登録了承を得ることができた。具体的には、認知症等で地域とのつながりが少なくなってしまう高齢者を対象に、毎月2回程度訪問していただき、地域の人とのつながりを確保するといった活動を行なっていたこととしている。

#### ◆ 徘徊 SOS ネットワークシステムの構築

気軽に相談できる機関と体制をシステム化することで、見守りや捜索がスムーズに行なわれる体制を構築。警察、消防、自治会、民生委員、郵便局、介護保険事業所等との連携、協力を得て、徘徊等で所在が分からなくなってしまった時の対応をマニュアル化した。このシステムの構築により、徘徊は「してはダメ」ということではなく、徘徊してしまっても、地域の見守りやネットワークのシステムがあって、「徘徊しても大丈夫」というまちづくりを目指していくこととする。

#### 目指す地域



## 徘徊模擬訓練の実施

徘徊SOSネットワークシステムを模擬訓練の実施ということで実際に活用し、周知と定着化を図り、今後の課題等について検証を行なった。

日 時：平成22年2月24日（水） 8：30 ～ 12：00（徘徊模擬訓練）  
15：00 ～ 16：00（反省会）

場 所：御浜町尾呂志地区内

（阪本区、上野区、川瀬区、栗須区、栗須下地区、片川区、西原区、中立区）

参加者：警察署生活安全課、地元駐在、消防署、民生委員、地元区長代表、地元老人クラブ代表、地元民生委員代表、社会福祉協議会、健康福祉課、総務課、県庁職員、地域包括支援センター



— 訓練と反省会での様子 —

## ◆ 認知症介護者のつどい・交流会の創設

当地域には家族会もない状況であるため、「認知症家族の会 三重県支部」と共催で、3ヶ月に1回のつどい・交流会を創設。（6月9日、9月8日、12月8日、3月9日に開催）なお、3月9日のつどい・交流会では、ミニ講演会も同時開催した。



## ○ まとめ

21年度は、スタートの年ということもあり、『認知症を知る！』をテーマに地域住民への周知・理解、専門職への理解とスキルの向上、地域での見守り体制、家族支援を目指した事業を展開してきたところである。サポーター養成講座をひとつのツールとして、対象者にあわせたアレンジを行ないながら進めていったが、周知、理解、というところでは一定の成果が得られたのではないかとと思われる。今後は、モデル事業をひとつのきっかけに、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの推進に対する思いが定着し、事業展開が促進されていく体制づくりに努め、継続性のある事業展開を目指して行きたい。